

研究・活動報告書

①研究・活動題目

1・鉄道駅における障害物について定義の決定

調査を始めるに当たり、駅ホーム上における障害物とは何かを再検討し、議論を重ねたうえで、ホーム際から警告ブロックをはさんで1.8メートルを「視覚障害当事者の通行可能路」と定めた。

2・調査方法と集計方法の確定

円滑で安全な調査活動を実現できるツールの検討と、様々な様式の駅ホーム環境を踏まえ、無駄のない項目設定と、インターネット利用による一括集計を計画、実行した。

3・現地調査

善意の第3者が調査活動に協力いただくことを予定して計画をたて、承認されたが、その安全確保を保証できないことを最終的に結論付け、自グループ内での調査活動のみとすることに決定した。結果、当初目標とした首都圏内の駅全ての調査は実現できなかった。

4・集計と分析

調査データはエクセルフォーマットにてまとめ、ピボット形式で集計、分析

②キーワード

・調査活動における安全の確保

*計画実施に当たり、善意の第3者が協力いただくことを目論むことでより多くのデータを集められる予定だったが、様々な調査方法を検討した結果、やはり完全な安全確保は難しく、万が一事故が発生した場合誰もその責任を負えないということで、第3者への協力要請を断念した。

・鉄道事業者とのコミュニケーション

*調査における安全の確保は、各鉄道事業者の理解と協力が少なからず必要だったので、様々な形でアプローチ、提案、要請、お願いをさせていただいたが、ご理解いただけなかった。唯一、横浜市交通局のみ、データ提供としてなら協力できるということで駅ホーム平面図をご提供いただく。

③研究・活動成果

障害物調査：

- ・鉄道事業者・路線 5
- ・駅数 72
- ・番千数 172

駅ホーム平面図 (PDF 形式) 横浜市市営地下鉄全駅分